平成 24 年度事業 事後評価・決算

事務事業マネジメントシート

平成 25 年 6 月 1 日作成

事務事業名	雲南広域連合（環境）運営事業	所属部	市民環境部	所属課	市民環境生活課
総合計画体系 政策名	〈Ⅱ〉環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり≪定住環境≫	所属G	環境グループ	課長名	安食恵治
施策名	〈12〉環境衛生の充実	担当者名	佐藤慎治	電話番号	0854-40-1031
目的 対象	A）市民 B）廃棄物（ごみ） C）廃棄物（し尿）	意図	A）ごみの減量と再資源化を行う。B）適正に処理する。	（内線）	3581
基本事業名	〈034〉し尿の適正処理	予算科目	会計 款 大事業	大事業名	し尿処理総務管理事業
目的 対象	し尿	意図	適正に処理する。	項 目 中事業	中事業名 雲南広域連合負担金（環境）
			01 20 01		
			10 20 26		

1 現状把握【DO】

（1）事業概要

① 事業期間

- ☐ 単年度のみ
- ☑ 単年度繰返（ 16 年度～ ）
- ☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度 ）

② 事業内容（期間限定複数年度事業は全体像を記述）

雲南市、奥出雲町、飯南町のし尿、汚泥の共同処理
維持管理負担金 毎月1回
起債償還負担金 年2回
特別市町負担金（地方交付税分、雲南市のみ）年1回

（2）事務事業の手段・指標

① 主な活動

24年度実績（24年度に行った主な活動）	25年度計画（25年度に計画する主な活動）
負担金の支払い、会議への出席	前年度に同じ

② 活動指標

	活動指標	単位	22年度（実績）	23年度（実績）	24年度（実績）	25年度（計画）
ア	会議開催回数	回	10	12	8	8
イ	負担金交付回数	回	12	12	12	12
ウ						
エ						

（3）事務事業の目的・指標

① 対象（誰、何を対象にしているのか）

雲南市民

③ 対象指標

	対象指標	単位	22年度（実績）	23年度（実績）	24年度（実績）	25年度（計画）
ア	市民	人	41,917	41,159	40,548	40,440
イ						
ウ						

② 意図（対象がどのような状態になるのか）

し尿、汚泥を適正に処理する

④ 成果指標

	成果指標	単位	22年度（実績）	23年度（実績）	24年度（実績）	25年度（計画）
ア	し尿量	kl	7,672	7,020	6,394	6,394
イ	汚泥量	kl	15,474	15,526	15,066	15,066
ウ						

（4）事務事業のコスト

① 事業費の内訳（24年度決算）

負担金：91,895千円

② コストの推移

		単位	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（決算）	25年度（計画）
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				13,500
	その他	千円				
	一般財源	千円	95,988	92,889	91,895	82,748
	事業費計（A）	千円	95,988	92,889	91,895	96,248
人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	
	延べ業務時間	時間	40	40	40	
	人件費計（B）	千円	156	158	157	
トータルコスト(A)+(B)		千円	96,144	93,047	92,052	

（5）事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化（この事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？）	② 改革改善の経緯（この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか？）	③ 関係者からの意見・要望（この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか？）
下水道の普及に伴い、し尿は減少しているが、浄化槽汚泥は増加している。 【経過】 し尿、汚泥を共同処理するため、昭和36年に設立された雲南環境衛生組合だったが、平成23年3月に組合を解散し、同年4月に雲南広域連合に統合した。	雲南クリーンセンター（し尿処理施設）の老朽化に伴い、平成18年から1市2町で汚泥処理集約化等検討幹事会を組織し検討を進め、平成25年度から、し尿・浄化槽汚泥・公共下水道汚泥・農業集落排水汚泥を一体的に共同処理する施設の整備を行うこととなった。	事務局内部（関係市町）で、下水道を含めた汚泥の効率的な処理が求められている。

事務事業名	雲南広域連合（環境）運営事業	所属部	市民環境部	所属課	市民環境生活課

2　事後評価【SEE】

A 目的妥当性

① 政策体系との整合性　この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？　意図することが結びついているか？

☐ 見直し余地がある　☑ 結びついている　＊余地がある場合⇒

② 公共関与の妥当性　なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？

☐ 見直し余地がある　☑ 妥当である　＊余地がある場合⇒

③ 対象・意図の妥当性　対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？

☐ 見直し余地がある　☑ 適切である　＊余地がある場合⇒

見直し余地があるとする理由

B 有効性

④ 成果の向上余地　成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？

☐ 向上余地がある
☑ 向上余地がない

理由：適切にし尿及び汚泥の処理を行っており向上の余地はない

⑤ 廃止・休止の成果への影響　この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？

☐ 影響無
☑ 影響有

理由：法に基づく市町村固有の事務であるため、廃止できない

⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性　目的達成には、この事務事業以外の手段（類似事業）はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？

☐ 他に手段がある　＊ある場合⇒（具体的な手段や類似事業名）
　☐ 統廃合・連携ができる
　☐ 統廃合・連携ができない
☑ 他に手段がない

理由：市町村がすべき事務を効率化の観点から共同処理しており、統廃合できない

C 効率性

⑦ 事業費の削減余地　成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）

☐ 削減余地がある
☑ 削減余地がない

理由：一部事務の民間委託をするなど事務の効率化を図っている

⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地　成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？

☐ 削減余地がある
☑ 削減余地がない

理由：一部事務の民間委託をするなど事務の効率化を図っている

D 公平性

⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地　事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？　受益者負担が公平・公正か？

☐ 見直し余地がある
☑ 公平・公正である

理由：雲南市で発生するし尿、汚泥を対象としており、公平・公正である

評価の総括

① 1次評価者としての評価結果

A 目的妥当性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
B 有効性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
C 効率性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
D 公平性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり

② 1次評価結果の総括（根拠と理由）

民間委託等行っており、事務の効率化を図っている
汚泥の効率的処理を検討中である

3　今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止　☐ 休止　☐ 目的再設定　☐ 事業統廃合・連携
☐ 事業のやり方改善（有効性改善）　☐ 事業のやり方改善（効率性改善）
☐ 事業のやり方改善（公平性改善）　☑ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

従来どおり現状を維持するが、下水道を含めた汚泥の効率的処理が課題である。

② 改革・改善による期待成果

成果＼コスト	削減	維持	増加
向上			
維持		●	×
低下		×	×

廃止・休止の場合は記入不要。
コストが増加（新たに費やし）で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。